加賀友禅のきほん ニュースレター 2026 Vol.1

7年ぶりに加賀友禅作家の落款（らっかん）登録

協同組合加賀染振興協会の規定では、工房を営む師のもとで5年以上修行を積み、技術を磨いたうえで、協会会員2名の推薦を受けて会員資格を取得した者が、加賀友禅作家として落款を登録することができます。

2026年10月、7年ぶりとなる落款登録が行われ、新たに松藤知実さんと金丸絵美さんの2人が加賀友禅作家として認められました。松藤さんは31年、金丸さんは15年にわたる弟子時代を経て独立。現在はそれぞれ、加賀友禅のきもの制作に加え、時代のニーズに応じた新商品の開発にも取り組んでいます。

松藤さんは、きものの意匠としては珍しいネコやシカなどの動物をモチーフにした作品を得意としています。**第46回伝統加賀友禅工芸展では、金沢市片町の街並みを描いた訪問着「街」を出展。道行く人々や犬の姿を生き生きと表現した作品として注目を集めました。一方の金丸さんは、1916年創業の「加賀友禅 金丸染工」で、父・修一さんのもと研鑽を重ねてきました。**名刺入れやスカーフ、食器など、加賀友禅の意匠を取り入れた商品を数多く手掛けるなど、新たな魅力の創出にも積極的に挑戦。若い感性を生かし、幅広い分野で活躍しています。

協会では、伝統的な技法や美意識を受け継ぎながらも、時代に即した需要の拡大が重要であるとし、「2人の加入は業界にとって大きな希望。独自の発想で加賀友禅をさらに盛り上げてほしい」と期待を寄せています。



■訪問着「真夜中に」／松藤知実
第48回伝統加賀友禅工芸展 銅賞
器物とともにネコが描かれている



■訪問着「花菖蒲園」／金丸絵美
瑞々しい花菖蒲の美しさを表現